

令和8年社会生活基本調査に関する研究会（第2回） 議事概要

- 1 日 時 令和7年7月17日（木） 10:00～12:00
- 2 場 所 総務省統計局7階中会議室（Web 併用）
- 3 出席者（構成員） 玄 田 有 史 東京大学教授[座長]
石 田 賢 示 東京大学准教授（Web出席）
勝 浦 正 樹 名城大学教授（Web出席）
黒 田 祥 子 早稲田大学教授
永 井 暁 子 日本女子大学教授
川 辺 健一郎 東京都総務局統計部人口統計課長
（統計局）阿向統計調査部長、山本調査企画課長、奥野労働力人口統計室長、
内藤課長補佐、大倉企画指導第三係長、北原審査発表第三係長、
峯岸統計専門職、松田統計専門職

4 議 事

- （1）令和8年社会生活基本調査の調査事項及び調査票について
- （2）令和8年社会生活基本調査の集計事項について
- （3）その他

5 議事要旨

- 開会に当たり、阿向統計調査部長から挨拶
- 配布資料に基づき事務局から説明を行い、その後、意見交換が行われた。構成員等からの主な意見は以下のとおり。

（1）令和8年社会生活基本調査の調査事項及び調査票について

【23 趣味・娯楽の種目の新設（スポーツ観覧・観戦関連）調査票 A】

- ・ 自宅のパソコンでお金を払ってライブ・コンサートや講演会を視聴するなど、現地以外で視聴する趣味・娯楽は他にもあると思うが、今回ことさらスポーツのみを現地と現地以外で分ける意味は何か。

⇒ 新型コロナウイルス感染症の流行下で、例えば美術鑑賞などバーチャル（インターネット）で何かを鑑賞するケースが一時期増えたため、現地と現地以外で分けて捉えることも検討したが、スポーツに比べ現時点では一般化していないと考えられるため、今回はスポーツのみを分けて把握することとした。

- ・ 現地以外でのスポーツ観戦を追加していただいたこと自体はよかったと思うが、種目が追加されたことで趣味・娯楽全体の行動者率が、前回調査までと比較して高めに出てしまう懸念がある。新設種目を入れない場合と入れた場合での行動者率がどのように違うかという点は確認していただきたい。

⇒ 分析用として、新設種目を入れない場合と入れた場合での行動者率を分けて集計する予定であるため、結果を確認してまいりたい。

【25 生活時間「この日は 次のいずれの日でしたか」の修正 調査票 A・B】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行下では、感染拡大防止のためテレワークを行う場合は終日行うケースが多かったように思うが、その後社会全体でテレワークが普及した結果、現在では半日だけテレワークをして、その後学校行事に参加したり介護をしたりといった働き方など、テレワークの使い方も多様化してきているが、本調査の中で捉えなくてよいのか。たとえばテレワークを半日だけした場合は「いずれにも当てはまらない」となるのか。

⇒ ご質問の半日だけテレワークをした場合は「テレワーク」にマークする。複数回答であるため、該当する選択肢はすべて選んでもらう。この設問はテレワーク人口や育児・介護による休暇を取っている人口などを把握することが目的ではなく、あくまで生活時間の説明変数として

使用するための項目である。たとえば生活時間にイレギュラーな回答（通勤時間が短い等）があった際、その背景を捉えるために使用する。「旅行・行楽」や「行事または冠婚葬祭」などの結果は集計には使用していない。以前は「天気」も調査項目に入れていたが、同様に生活行動の裏側を捉えることを目的とした項目であった。

⇒ 回答者の視点から考えると、たとえば半日テレワークをして半日余暇で休暇を取った場合に、どこにマークしていいのか少し分かりづらいように思うので、回答者が迷わないように該当箇所に説明を補記しておくなどの工夫が必要かと思う。

・ 産前産後休暇の方はどこにチェックを入れればよいか。

⇒ 産前産後休暇がどの選択肢に当てはまるか後ほど確認する。

⇒ 産前・産後休暇については、産前・産後休業から育児休業という一連の流れとなっていることから、「育児休業・子の看護休暇」にマークすることになります。なお、分かりにくいため『記入のしかた』に解説を記載する方向で検討。

（研究会後確認した結果の回答）

【23 趣味・娯楽について 調査票 A】

・ 「趣味・娯楽」の選択肢の一覧をあらためて見ると、若い人が選べる選択肢が少ないように思われる。たとえば1日中TikTokを見ているような大学生も多い印象を持っているが、タブレットで映画を見ている場合は「映画館以外での映画鑑賞」を選択できると思うが、Netflixでドラマを見ていたり、YouTubeでショート動画をずっと見ているという場合の選択肢がないと思う。それらを捉えなくてもよいのであればかまわないが、若い人が何に時間を費やしているのか分かるのも本調査ならではのことで、検討してみたい。また、休日に寝転がってひたすらスマホを見ている場合は、生活時間の記入欄で「休養・くつろぎ」になるのか、「趣味・娯楽」になるのか、「その他」になるのか、その区分けも非常に難しい時代になってきたと思う。

⇒ 「趣味・娯楽」に当てはまる選択肢がない場合は「その他の趣味・娯楽」として自由記入してもらおう形になるが、調査後に自由記入欄に書かれたものを集計し、既存の項目よりも多い、もしくは今後記入が多くなりそうな項目は、選択肢として追加するかどうか等、検討している。ご指摘のとおり、スマホでショート動画を見るときといった時間の使い方は一般的となっており、そういったものも含め、バーチャルで何かを楽しむという行動も増えてきているので、今後検討してまいりたい。

⇒ 趣味は何かと聞かれたときに、何か高尚なことを答えなければならないという意識が働き、読書や映画鑑賞など、当たり障りのない回答をする人も多いと思う。実態はあっても自由記入欄で「TikTokで踊ること」という回答をする人は少ないのではないかと。1日何をしていたかという聞き方をすれば、TikTokで動画を4時間見ていたという答えが得られる可能性もあり、質問の仕方によって回答がずいぶん異なってくると思う。「趣味・娯楽」の欄で高尚な趣味を捉えたいということであれば原案で問題ないが、何を捉えたいのかを整理しておく必要があると思う。

【表紙 調査票 A・B】

・ 調査票の表紙にインターネット回答を推奨する説明及び案内を追加することはよいと思うが、「ご都合の良い時間に回答いただけるインターネットでの回答をおすすめしています」と記載すると、紙の調査票では都合の良い時間に回答できないのかと解釈する人も出てくるのではないと思う。たとえば「インターネットでの回答をおすすめしています」と書いた後に「スマートフォンやパソコンからご都合の良い時間に回答いただけます」と逆転して記載いただけると分かりやすいのではないと思う。

⇒ こちらの記載の修正はまだ間に合うため、検討してまいりたい。

・ 記入時の注意事項欄に「世帯主は、最終ページの「世帯について」および「10歳未満の世帯

- 員について」も記入してください」と記載されているが、これまで誤って世帯主以外の方が世帯関連の調査項目を記入してしまうことが多かったのか。もし多かったのであれば、「世帯主以外の方は記入しないでください」と追記した方がよいのかもしれないが、どのようにお考えか。
- ⇒ 具体的な数字は持っていないが、それほど多いという認識はない。後ほど確認する。
- ⇒ あまり多くないのであれば、原案のままでよいと考える。
- ⇒ 確認した結果、多くはないが一定数記入が確認されたため、対応について今後検討。
(研究会後確認した結果の回答)

【21 学習・自己啓発・訓練 調査票 A】

- ・ 最近オンライン英会話や、YouTube で配信されている金融講座で勉強するという人も増えてきているが、そういった学習方法は「通信教育」になるのか、それとも「その他」に当てはまるのか。
- ⇒ 「通信教育」とは異なると考えられ、「自学・自習」や「その他」に当てはまると考える。「記入の仕方」等で回答者に分かりやすく説明を記載してまいりたい。

【21 学習・自己啓発・訓練、22 ボランティア活動、23 趣味・娯楽 調査票 A】

- ・ 「この1年間に何日くらいしましたか」の回答に用いる番号「1～9」を「0～8」に戻したことで自体はよいと思うが、もともと平成28年調査以前にOCRでの読み取り時に「0」を「6」と誤読されるケースが発生したことから令和3年調査で「1～9」に変更したということなので、再び誤読が発生してしまうのではないかと。対応策は何か考えているか。
- ⇒ 平成28年調査においてOCRで「0」を「6」と誤読した件数は約80件だったのに対し、令和3年調査で直後に続く「24 旅行・行楽」について「0(回)」と記入すべきところを「1(回)」と誤記入したと思われる件数は約2,000件であった。令和3年調査では、新型コロナウイルス感染症の影響で海外旅行へ行く人は相当少なかったと考えられるが、調査票の21～23の流れで、旅行をまったくしていない場合に「1」を記入してしまったと思われる。「0を6と誤読する」よりも、「24 旅行・行楽の誤記入」の方が圧倒的に多かったことから、今回番号を戻すこととしたい。

【25 生活時間「介護・看護」の文言修正 調査票 A】

- ・ 「介護・看護」を「家族の介護・看護」に変更するとのことだが、理由として、ボランティアで介護・看護をした方が記入箇所を誤らないため、という点は想定できたが、介護・看護を受けた側が記入箇所を誤らないためというのは思いもよらない視点だった。これまでの結果で介護・看護を受けた側が誤って記入したというケースは多かったのか。また、今回文言を変更することで、過去の結果との接続性という点では問題ないか。
- ⇒ 介護・看護を受けた側が誤って記入したケースは、いくつか見受けられたが、(データ審査において、関連情報を確認して一定条件を満たした場合に訂正処理を行っていることから、)誤記入のまま集計に使用されているケースは多くはないと思われるため、過去の結果との接続性にもあまり影響はないと考える。

【その他調査票全体について】

- ・ 調査票が分かりやすく改善されていると思う。なお、今回は紙の調査票で説明いただいたが、オンラインの調査票ではどのような見え方になるのかが気になった。

(2) 令和8年社会生活基本調査の集計事項について

- ・ 令和3年調査と同様の集計区分及び集計事項ということだが、変更の要望はなかったか。
- ⇒ 特に変更の要望はなかった。

(3) その他

【詳細行動分類（調査票 B）の改定】

- ・ 令和 3 年調査では国際比較可能な統計表は作成したか。
- ⇒ HETUS（Eurostat が策定したガイドライン及び行動分類）に対応した分類について組み替え集計を行い、国際比較可能な統計表を公表した。

【調査計画（変更後）】

- ・ こちらは統計委員会での審議でも使用するものか。
- ⇒ そのとおり。

【調査票の提出方法別回収状況（席上配布）※第 1 回研究会での質問事項関連】

- ・ 調査票の提出方法（調査員、封入提出の有無、郵送提出、オンライン）について、当初抽出世帯と追加抽出世帯との差があまりなく安心した。また、年齢の構成比でみても当初抽出世帯と追加抽出世帯の差があまりなく、当初抽出世帯と追加抽出世帯の調査票を合わせて結果を推定することに一定程度の正当性があると言える。可能であれば何かの機会にこのような分析結果を報告してもらえれば、本調査結果の利用者も安心できるのではないか。
- ・ 調査票の提出方法（調査員、封入提出の有無、郵送提出、オンライン）別の分析について、ほぼ予想どおりの分析結果が出ており、年齢別の傾向に男女差も出ておらず安心した。
- ・ 20 代と 30 代において、PC やスマートフォンでの調査票提出が思いのほか少ない。5 年後、10 年後の調査でもこの割合が変わらないのであれば、調査員の苦労も変わらない。オンライン回答へいかに誘導していくかが課題だと思われる。
- ・ 20 代、30 代の若い人にとってもオンラインよりも紙での回答の方が信頼できると考えているのかもしれない。もし実際に接している調査員の方がそういった傾向があるという感覚を持っている場合は、どのようにオンライン回答へ誘導していくかという方向づけへの参考になると思われるため、検討していただきたい。

【調査対象世帯に配布する調査書類一式 ※第 1 回研究会での質問事項関連】

- ・ 世帯が調査票の「生活時間について」を記入する際のメモ用に配布する「生活時間メモ」の内容は変更するか。調査票の記入方法等、分からないことがあったときのためにコールセンターの電話番号を記載しておいてはどうか。
- ⇒ コールセンターの番号を記載することは現段階では考えていないが、「スマートフォン・パソコンなどの使用について記入」の欄を、自由記入ではなく「○×」で記入できるようにするなど、今後内容について検討してまいりたい。
- ・ 予算が大きくなってしまいうちわを今でも持っている。ノベルティ感が出てよいかもしれない。
 - ・ 平成 12 年国勢調査で配布されたうちわを今でも持っている。ノベルティのようなものがあれば世帯の回答意欲向上につながるかもしれない。

【その他】

- ・ 調査票 A の「趣味・娯楽」で新設する種目の結果がどうなるか楽しみにしている。また、前回令和 3 年調査は新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた時期であったため、令和 8 年の結果は感染症の流行前の傾向に戻るのかどうかも気になるところ。できる限り早く結果を公表していただきたい。

- ・ ご指摘のとおり、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復という点が、令和8年調査結果のひとつのハイライトになると考える。
 - ・ 第1回研究会でも申し上げたが、将来的な人口規模の縮小や個人のプライバシー意識の高まりなど、本調査に限らずどの経常調査・周期調査でも、調査員の確保や調査員活動そのものが年々厳しさを増しており、従来のような人海戦術に頼った調査方法は曲がり角に来ていると常々感じている。令和8年調査では督促期間後に限って郵送提出を取り入れるとしているが、調査員調査によらない調査方法も含め、今後調査方法のあり方について広く検討していただきたい。
 - ・ 本調査は他にはない独特な調査であり、粛々と前回までにやってきた項目の調査を続け、歴史を作っていくことが大切であると考えるが、一方で、本日の研究会で意見が出たとおり調査票自体の高齢化という視点を持って、調査項目や調査票の文言等の検討をしていくことも必要であると考え。パソコンが登場した時代には調査票の大幅な変更が求められたと思うが、今後はAIが登場するなど再び社会が大きく変わってきており、次回令和13年調査では多くの検討すべき点が発生すると思われる。引き続き尽力していただきたい。
- ⇒ 本調査は、経済活動では捉えられない家事などの無償労働や、邦舞（日本舞踊など）等の日本古来の項目を捉える唯一の統計である。守るべきものと変化するものの両方を捉えられるよう次回調査に向けても検討してまいりたい。令和8年調査については、今年10月に統計委員会での諮問を予定している。今後も構成員の皆様にご意見を賜りたい。

以上